

企業等との連携による働く環境づくり

佐賀県での多文化共生の取組

佐賀県地域交流部国際課長 井崎 和也

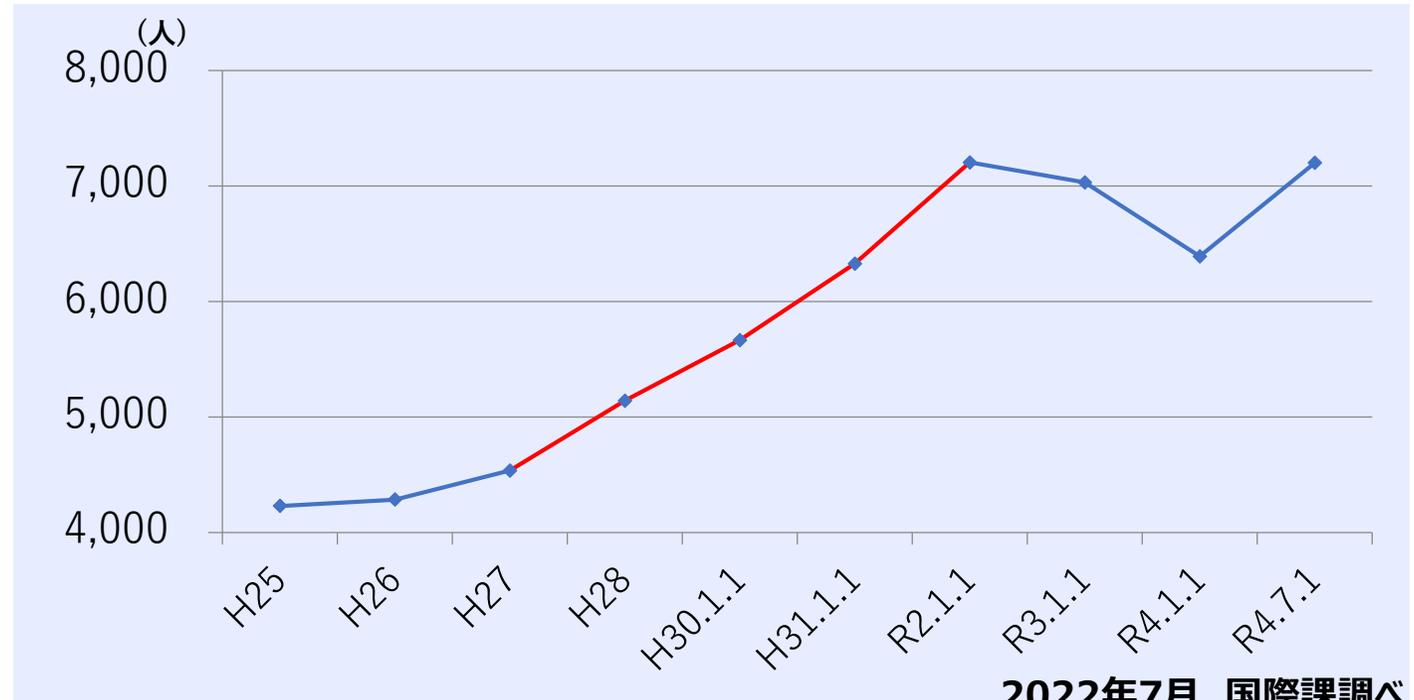
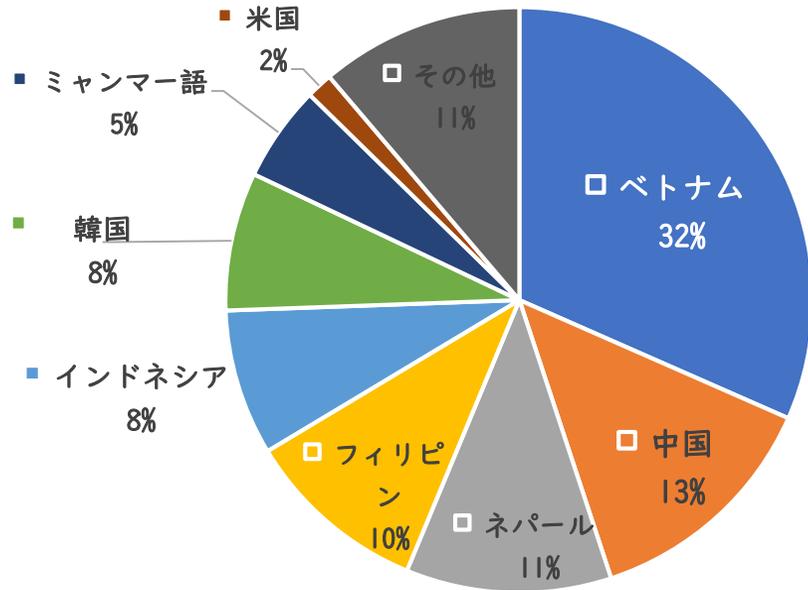
本日の流れ

- ・佐賀で暮らす外国人の概要
- ・外国人と共に働く場における連携の取組
- ・今後に向けて

佐賀で暮らす外国人の概要（暫定）

H24～H28 12月末現在(人)

年次	H25	H26	H27	H28	H30.1.1	H31.1.1	R2.1.1	R3.1.1	R4.1.1	R4.7.1
人数(人)	4,229	4,285	4,536	5,140	5,666	6,338	7,204	7,027	6,391	<u>7,200</u>



2022年7月 国際課調べ

- 新型コロナウイルス感染症拡大に伴う水際対策の影響により、R3、4年と連続で減少していたが、水際対策が緩和された後のR4.7.1は急激に増加している。
(H30.1.1→H31.1.1: 672人増、H31.1.1→R2.1.1: 866人増、R2.1.1→R4.1.1: 813人減、R4.1.1→R4.7.1: 809人増)
- R4.7.1現在、県人口の約0.89%を占める(県内人口801,250人(R4.7.1推計))
- 国籍別ではベトナムが最も多く、次いで中国、ネパール、フィリピン、インドネシアの順。
- ネパールがR4.1.1から332人増と大幅に増えている。ベトナム、ミャンマー、インドネシアは100人超増。

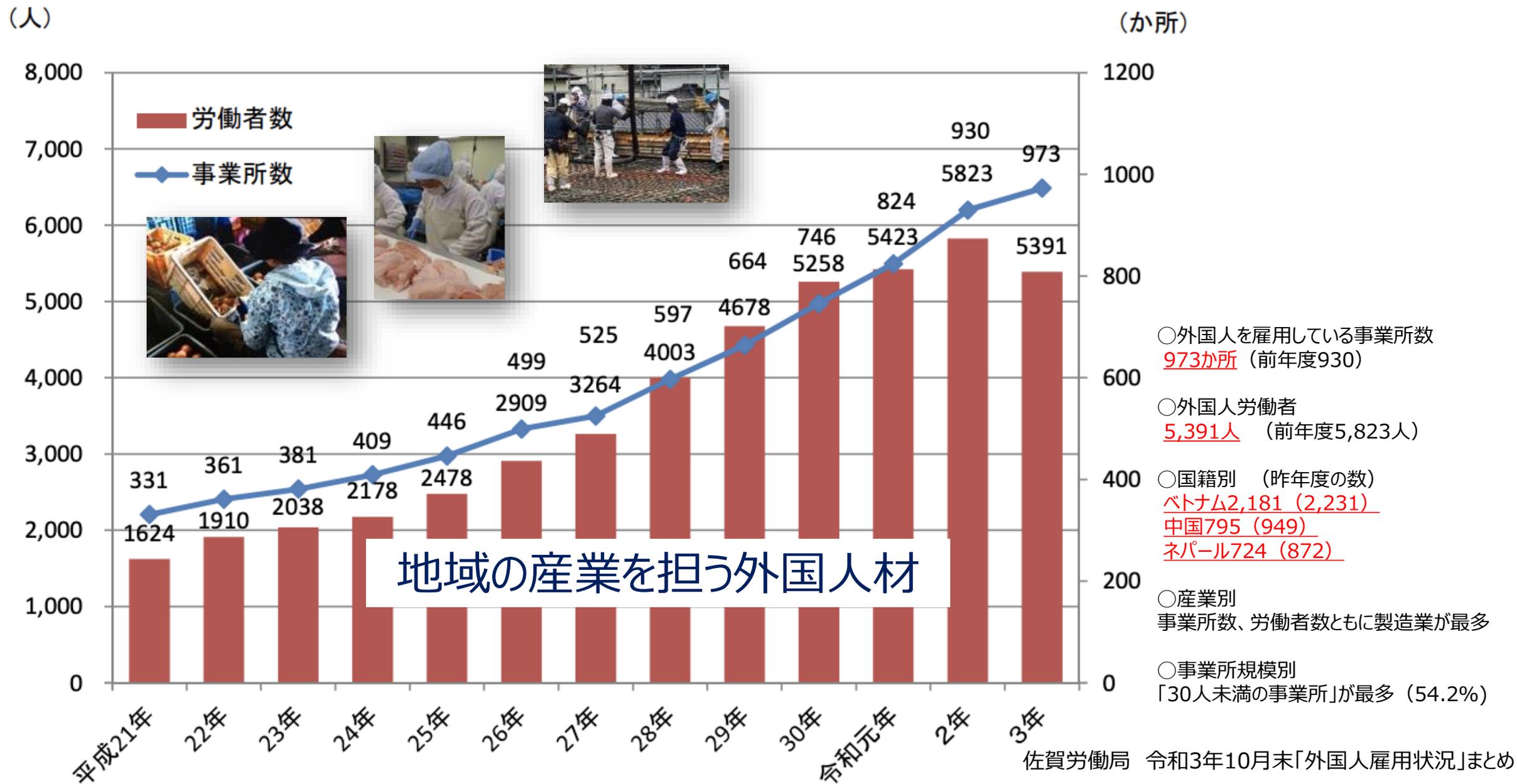
佐賀で暮らす外国人の概要（在留資格別推移）

令和4年7月1日現在（H28まで12月末日現在）（人）

区 分	H25	H26	H27	H28	H30.1.1	H31.1.1	R2.1.1	R3.1.1	R4.1.1	R4.7.1	(%)
技能実習	1,171	1,303	1,437	1,863	2,153	2,590	3,260	2,869	2,089	2,300	(31.9)
永住者	908	920	951	975	978	1,009	1,016	1,044	1,036	1,058	(14.7)
留学	594	566	657	744	871	947	999	824	544	802	(11.1)
特定技能	-	-	-	-	-	-	-	63	316	548	(7.6)
技術・人文知識・国際業務	131	113	139	169	247	306	368	380	413	474	(6.6)
特定活動	24	37	38	60	81	93	84	404	454	414	(5.7)
特別永住者	557	547	539	501	482	475	458	450	437	414	(5.7)
就労資格	208	200	202	221	242	237	255	238	284	394	(5.5)
家族滞在	266	217	196	208	240	271	299	282	303	338	(4.7)
日本人の配偶者等	238	243	243	248	236	265	296	295	302	303	(4.2)
定住者	101	108	100	107	108	109	102	96	111	120	(1.7)
その他	31	31	34	44	28	36	67	82	105	35	(0.5)
総計	4,229	4,285	4,536	5,140	5,666	6,338	7,204	7,027	6,394	7,200	(100)

- 技能実習が最も多く、3割以上を占める。次いで、永住者、留学生の順。
- 新型コロナウイルス感染症の水際対策の緩和に伴い、技能実習（2,089→2,300人）、留学（544→802人）、特定技能（316→548人）を中心に増加に転じている。
- 減少している区分は、特定活動（454→414人）、特別永住者（437→414人）、その他（105→35人）となっている。

佐賀県の外国人雇用事業所数、労働者数の推移



県内の在住外国人年齢別比較

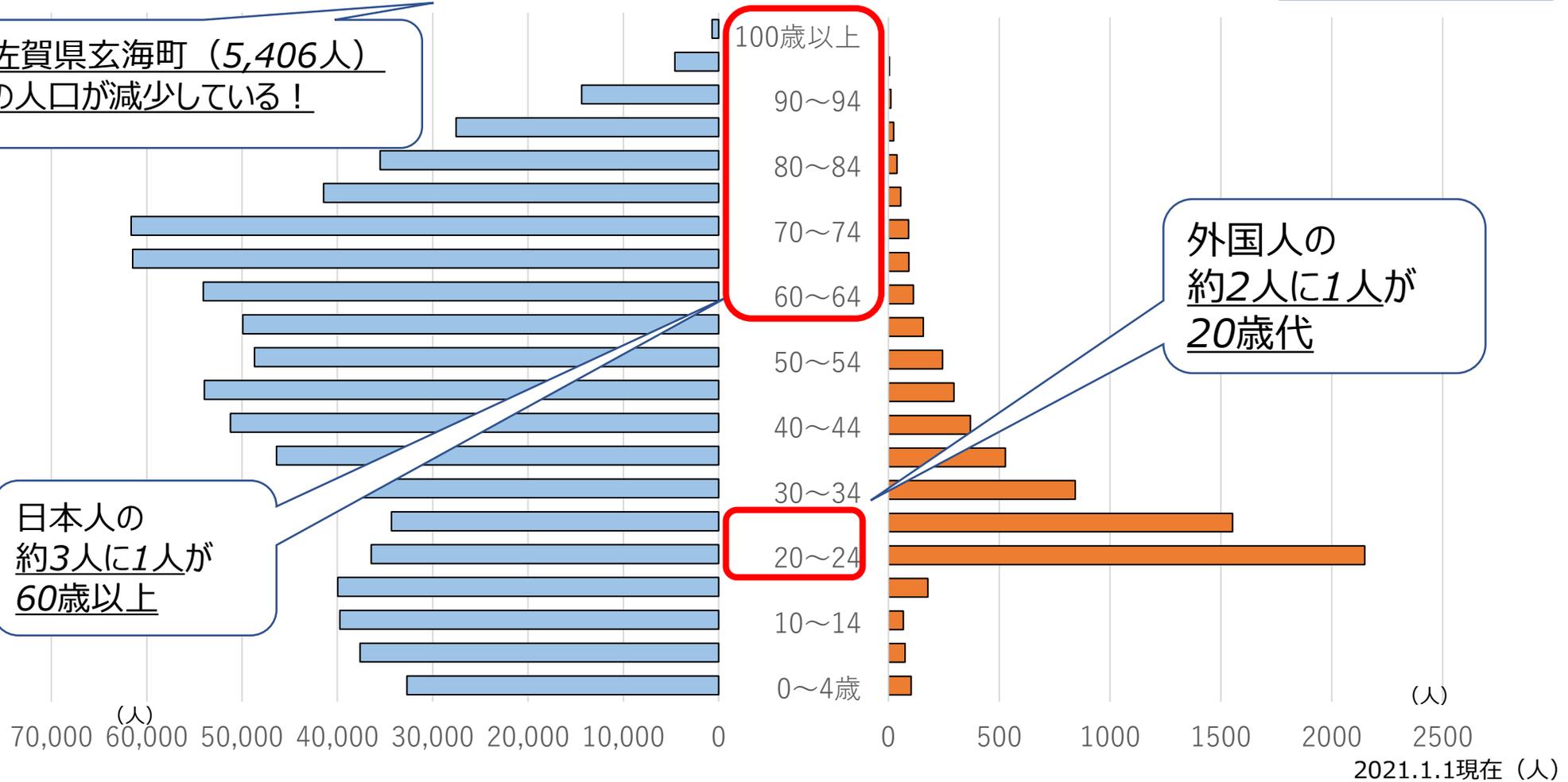
日本人 811,224人
 ※2020年から5,381人減少↓

外国人 7,027人
 ※5年前から2,742人増加
 ※佐賀県大町町人口 (6,306人)

毎年佐賀県玄海町 (5,406人)
 規模の人口が減少している！

日本人の
 約3人に1人が
 60歳以上

外国人の
 約2人に1人が
 20歳代



佐賀県の現状と施策の方向性

人口減少による労働力不足を背景として、さまざまな分野で技能実習生を中心とした外国人材が増加し、佐賀県の産業を支えているという実態。特定技能の増加に伴い、今後もその傾向はますます強くなることが推測される。

国際的にも、国内的にも外国人から選ばれる立場にある中で、外国人住民（永住者、留学生、特定技能や技能実習生など）を「同じ県民として地域の担い手（仲間）」として活躍してもらうための環境整備が必要。

さまざまな場面での生活支援や、人材として活躍してもらうための環境整備に加え、地域との融合に向けた取組など多岐に渡る長期的な取組が求められる。

これらの取組は、まさに「地域づくり」そのもの。地域社会に関わる私達ひとりひとりが変化し、社会の仕組みとして私たちの生活を豊かにしていくもの。

佐賀県の多文化共生に関する施策

取組の柱① 地域や企業等における意識啓発（働く環境整備）

- ・各産業の外国人を雇用している事業所等で、外国人材の受入前研修や「やさしい日本語」研修を行うなど、外国人と働くために必要なコミュニケーションや双方の理解について考える機会を設ける。

取組の柱② 地域における交流の機会づくり

- ・外国人を職場と自宅の往復だけの生活にさせないため、自治体、企業等と連携しながら地域の交流の接点を作る。
- ・外国人と地域社会をつなぐ場をコーディネートできる人材を育成する。

取組の柱③ 地域日本語教室など「日本語」の推進

- ・教室での交流をベースにした活動を通して、地域の人達の「顔の見える関係」を構築し、双方の異文化理解とコミュニケーション力を向上し、居場所として感じてもらう。
- ・セイフティネットとして適切に相談窓口につなげていく仕組みを構築する。

企業等における意識啓発（働く環境整備）の取組

県多文化社会コーディネーターを中心とし、企業と様々な関係機関等をつなぎ、連携した出前講座・研修などを企画・実施

- ・ 異文化理解・コミュニケーション研修
（「やさしい日本語」や異文化コミュニケーションについての研修など）
- ・ 外国人材を対象にした生活オリエンテーション
- ・ 受入企業や関係職員を対象にした研修やオリエンテーション

特徴

- ・ 企業の個別状況に応じたオーダーメイドの研修
- ・ 講義だけでなくワークショップなど実際にコミュニケーションを行う実践型の研修

取組Ⅰ. 企業と連携したコミュニケーション支援

課題

現場の社員・従業員が、外国人を受入れることについて十分理解できておらず、受入れ後に日本人職員に不満や不安、悩み等が生じている。適切な人材育成ができないだけでなく、外国人材の能力を十分に発揮できないことがある。

企業と連携した研修を実施

企業A（建設業）

全5回の企業内研修を実施

（テーマ：双方のコミュニケーションの力の向上）

<課題>

- ・技能実習生と日本人従業員の間でコミュニケーションが円滑にできない
- ・建設現場で指示が伝わらないという事は命に関わる重大な事

<取組みと成果>

取組の中で、従業員がやさしい日本語で話すことを学び、実践することでスムーズな実務を実行していくことにつながり、実習生ものびのびと仕事ができるようになった。

企業B（食品加工、総菜製造）

全5回の企業内研修を実施

<課題>

- ・アパートや職場でのごみ出しや分別がうまくいかず、日本人従業員（パートさん、職員）とトラブル。
- ・指示が通じず、実習生のミスを実習生が手直す毎日。イライラが溜まる。
- ・突然隣に外国人。戸惑う。

<取組みと成果>

- ・所管行政の循環担当課の職員に参加してもらい、ごみの出し方について文化の違いを一緒に学び、どのように対応していけばいいかを話し合った。
- ・コミュニケーションについても、日本人従業員が「やさしい日本語」を学びコミュニケーションの円滑に繋がりそれが実習生のミスを軽減し、生産性が上がった。

企業内研修の例①



全5回の研修を実施
(活動例：コミュニケーションの円滑化)

実習生と日本人従業員の間でコミュニケーションが円滑にできないことが原因で、双方共に混乱が生じていた。特に建設現場で指示が伝わらないという事は命にかかわる重大な要因にも関わることから、コミュニケーションが円滑にできることは大きな課題だった。

最初は文化や国の事を話すことで実習生の気持ちをほぐし、日本人従業員には「やさしい日本語」についてのレクチャーを行った。後半のワークは仕事現場で起きる「ヒヤリハット」の場面を見て、先輩後輩が一緒になってのディスカッションをすることで、従業員の気持ちが一つになった。

この企業においては日本人側のコミュニケーション力の向上において、従業員がやさしい日本語で話すことを学び、実践することでスムーズな実務を実行していくことにつながり、実習生ものびのびと仕事ができるようになった。



実習生

- ・地震があったときちゃんとできます。
- ・日本人の人と話せたことがうれしかった。国の事たくさん話した。
- ・日本語の勉強が面白くなった。もっと勉強したい。
- ・日本人の先輩が一生懸命教えてくれたことがうれしかった。
- ・わからないことがあったとき、ちゃんと聞いて確認する事、大事と学んだ。



参加した日本人従業員

- ・外国人ばかりに変化を求めてもダメ。日本人も変わらないと。
- ・実習生とか抜きにして同じ人間なんだと気づいた
- ・お互い一番理解を得られるのは話すことだとわかった。
- ・やさしい日本語が魔法の言葉のようだった。日本人側の勉強不足！



企業

- ・『やさしい日本語』を知った。日本人もコミュニケーション力を向上しなければいけない。
- ・双方のモチベーションを維持する取り組み。社内に必要。
- ・実習生が日本との架け橋になる人材に見えてきた。
- ・参加前より実習生が日本人従業員と積極的に話すようになり、仕事の効率が上がった。

企業内研修の例②

事前アンケート+ワークショップ型研修を実施
(活動例：社員の相互理解)

技術・人文知識・国際業務の在留資格で、外国人従業員が入社。しかし、言葉や文化の違いからくる考え方や物事の捉え方の相違などから、日本人従業員とちょっとしたことで誤解が生じてしまっている。

事前に、外国人従業員、日本人従業員にそれぞれアンケートを行い、働く皆さんがどのような考えを持ち、それに向き合っているかを把握した。

多くの従業員からは外国人従業員と働くことに、課題や不安を感じつつも、異文化を知ることや笑顔で勤勉であることを好意的に感じていた。言葉が伝わらないので不安や心配と答える人も、それが事故などに繋がったり、「仕事が楽しくない」と感じ転職してしまうのではないかと、と相手を思うからこそその感情であることもアンケートから読み取れた。ワークショップで課題を共有し、意見交換をすることで同じチーム、仲間として今後どのように取り組んでいくか考えるきっかけとした。

今回企業内で明らかになった困りごとを、さが多文化共生センターや地域日本語教室とさらに連携し、解決につなげる

外国人従業員

- ・皆から色々話をして仕事にも役に立てられたらいいと思う。特に日本の文化を知りたい。自分からの意見も伝えたらと思う。
- ・同僚ともっと交流したい。

日本人従業員

- ・自分も相手の立場になって一度考え、ゆっくり、丁寧に話すことを心掛けて、お互いに楽しく仕事ができるよう努めたい。
- ・各国の文化の違いに興味ができたので、話をして色々なことを知りたい。

企業

- ・仕事とは違った触れ合いで心が動いたようだった。日頃の思いが研修によって整理され、共有され、お互いの考えを認知できたと思う。



やさしい日本語普及動画



やさしい日本語で

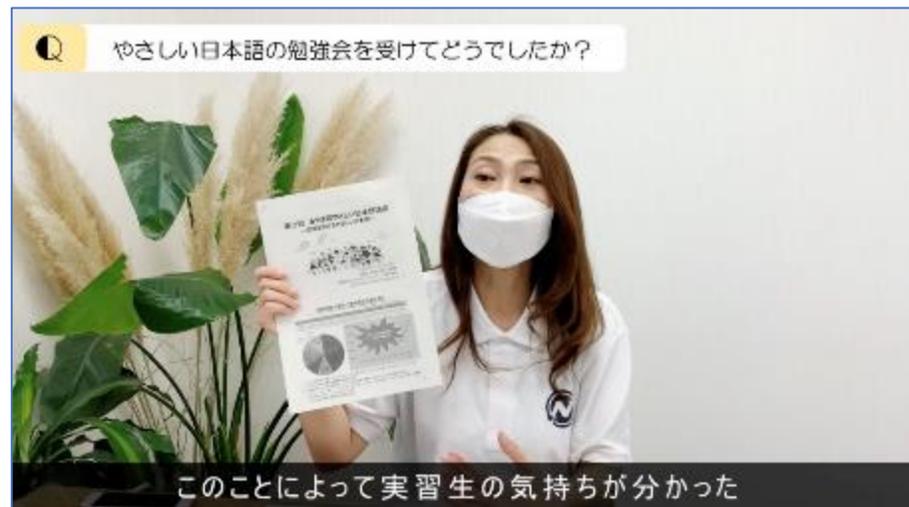
にほんご



かべ



の壁をなくそう!



技能実習生を受け入れている企業の取組



基礎編、入門編、実践編
Youtubeにて絶賛公開中！

やさしい日本語 佐賀県



取組 2. 労働局・関係機関と連携したセミナー開催

課題

外国人の雇用に関する関係機関や相談窓口、支援団体やツール等が十分認知されておらず、事業所内だけで外国人の雇用に関する悩みを抱えている。

佐賀労働局・ハローワークと連携したセミナーを開催

外国人材受入れ企業向け異文化コミュニケーション向上セミナー

外国人材を雇用している／雇用する企業向けに、外国人材と共に働くうえでのマインドのあり方、企業内での職場の環境整備に活かせるコミュニケーションの工夫などのワークショップなどを実施。

場所：県内3カ所のハローワーク

連携内容：

【労働局】外国人雇用事業者への周知案内、ハローワークとの調整

【ハローワーク】セミナーにて外国人労働者の雇用管理改善について指針等の解説

【佐賀県】企業内での異文化理解やコミュニケーション向上セミナーの全体構成・実施

特徴：

参加事業者は、外国人の雇用について制度面の支援施策の情報を知るとともに、参加事業所間で外国人従業員とのコミュニケーション等における課題などを共有、コミュニケーションの実践として、留学生など外国人協力者に参加してもらい日頃使用している日本語が伝わりにくいことを体感してもらう。



参加企業

- ・話を聞くだけでなく、他の企業の方や留学生と話す機会があって充実していた。
- ・外国人からの視点であまり考えたことがなかったため、日本語表現のわかりづらさなど具体的に気づけた。
- ・人によって日本語の理解度が異なることを改めて確認した。
- ・まだ来日したばかりの外国人に対してこちらが受け入れていく姿勢を持ちたい。

(効果) 個別に社内での環境整備への取組について今後相談したいという企業あり

参加した外国人協力者（留学生など）

- ・企業の方も外国人の社員を強く繋ぎたいと思っているように感じた。
- ・企業の方たちといろいろ話しておもしろかった。たくさんのことを学んだ。
- ・企業のいろいろなことを知って、楽しかった。
- ・「やさしい日本語」について、知ってもらってよかった。

(効果) 協力者や、留学生の在籍する学校から、県内企業のことを知り企業の役職者の方と話すいい機会となったという意見あり

取組3. 外国人に関する相談窓口・市町と連携したオリエンテーション

課題

外国人の相談窓口などが十分認知されておらず、外国人従業員の住居や生活環境の整備、日本語教育の体制などについて、行政機関・関係機関との連携が十分でないことがある。

外国人総合相談窓口や市町と連携した生活オリエンテーション

企業C（食品加工）
ベトナム人技能実習生

企業D（農業）
ベトナム人技能実習生

企業E（建築・土木）
ベトナム人エンジニア3人
（技能・人文知識・国際業務）

企業F（機械整備）
ベトナム人技能実習生3人

- ・佐賀へ着任後、早い時期に生活オリエンテーションを実施。
- ・さが多文化共生センターの職員とベトナム人スタッフによる通訳を介しての実施。
- ・ゴミの分別については、市町の担当部局職員が参加。

<内容>

相談窓口、緊急連絡先、医療、災害・避難所、自転車のルール、生活のこと（食中毒予防、家の掃除、施錠、季節における対処法、マナーなど）

ごみの出し方ワークショップ



c地区、3-4区用

Quy định vứt rác

	Rác cháy được	Rác không cháy được	Lon rỗng Chai rỗng	Chai nhựa PET	Khay đựng thực phẩm	Giấy các loại	Rác độc hại
① Phân loại							
② Cần phải mua	Túi rác quy định					Dây giấy	Túi trong suốt
Có thể mua tại các siêu thị và cửa hàng tiện lợi							
③ Cột bao lại							
④ Kiểm tra ngày thu gom	Thứ 2 - 4 - 6	Thứ 5 tuần đầu tiên & tuần thứ ba		Thứ 5 tuần thứ hai		Thứ 5 tuần cuối cùng	Thứ 5 tuần đ ầu tiên & tuầ n thứ ba
	Tham khảo lịch thu gom rác được phát tại UBND thị trấn Yoshinogari						
⑤ Vui lòng mang rác đến nơi vứt rác được chỉ định trước 8h sáng vào ngày thu gom							
Hãy kiểm tra thử nơi vứt rác của khu vực bạn đang sống ở đâu nhé							
Nếu gặp khó khăn hoặc không thể phân loại rác, vứt rác được thì hãy hỏi ban bè xung quanh hoặc liên lạc với Bộ phận Dân cư của UBND thị trấn Yoshinogari để hỏi							
Bộ phận Dân cư - UBND thị trấn Yoshinogari							
SĐT : 0952 - 37 - 0335 / E-mail : jumin.@town.yoshinogari.lg.jp							

生活オリエンテーション



内容

1. さが多文化共生センター
2. 緊急連絡先
3. 医療
4. 災害・避難所
5. 自転車のルール
6. 生活のこと
(食中毒予防、家の掃除、施錠)

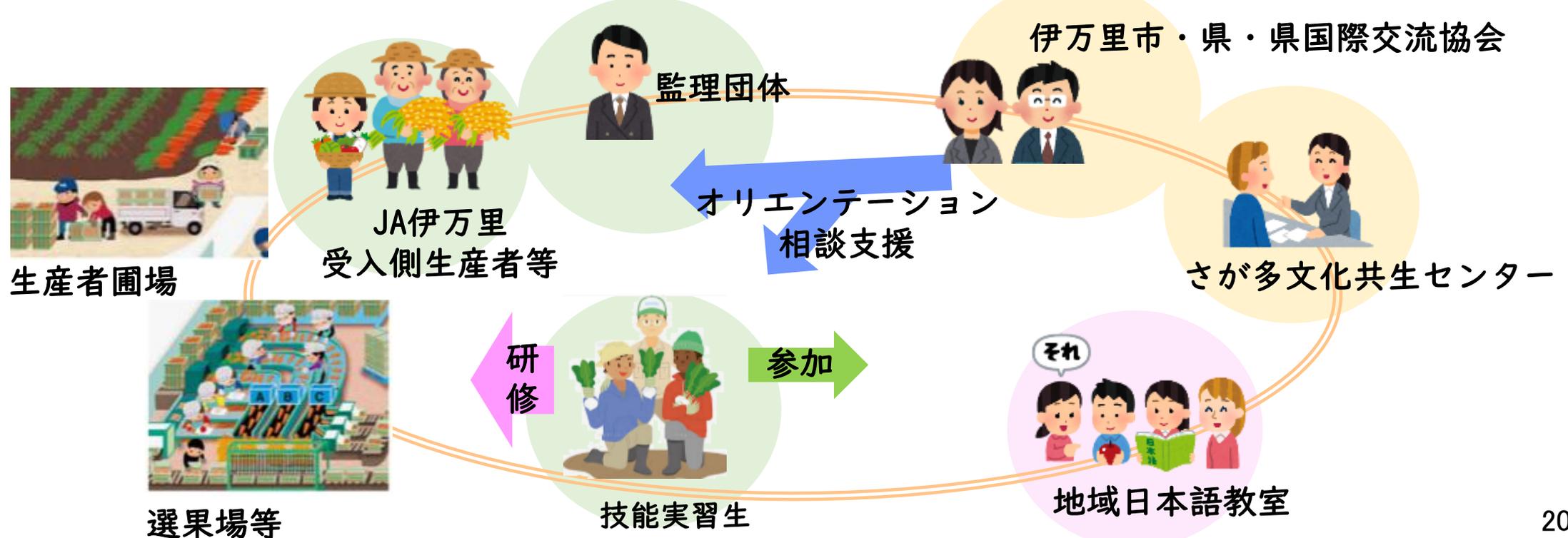
取組 4. 企業と地域が一体となった地域づくり

課題

地域社会での繋がりや交流機会があまりなく、外国人従業員が地域との接点を持ちにくいことがある。

<内容> JA伊万里が農作業請負方式により技能実習生を受入れる取組と連携。実習生に対する生活支援等を実施するとともに、受入れ側に対するオリエンテーション、地域の日本語教室や地域のまちづくり協議会の取組など、様々な主体との連携を図る。

<効果> コミュニケーションの円滑化、外国人材の地域との融合が図られる。



企業内の職員や実習生に向けた取組

JA伊万里における事前受入れ研修（受入れ職員・生産者向け）



共に働くチャレンジを！

- ・異文化理解を**積極的**に！
- ・**日本語**を学べる機会をつくろう！
- ・**双方のコミュニケーション力の向上は必須**！
- ・地域の**未来**を考えよう！

県内企業と技能実習生の声

分野：農業	企業	外国人
	地域の人に会ったら挨拶をするように言い聞かせている。おかげで地域の人が見守ってくれている。	日本語の勉強がしたい。仕事は大変だががんばる。
	人手が欲しくて募集しても、日本人の若者は来ない。	周りに何もないが、社長や奥さんはやさしい。買い物に行くとき、嬉しい。
	一生懸命働いてくれる。日本人より貪欲に働いてくれる。	

分野：建設	企業	外国人
	3年間だけ人がいなくなると企業としてはダメージがある。家族を連れてきていないなどして企業としては引き止めておきたい存在である。	日本語、特に仕様が難しい。毎朝知られているようだ。
	言葉に対する支援は必要だし、何かあったときの相談窓口として地域行政には頼りたい。	早く仕事ができるように、仕事や生活に関する日本語を勉強したい。
		実習期間（3年）が終わっても4年目に戻ってきたい。

技能実習生受入れにあたり、JA伊万里職員や生産者を対象に、多文化共生に係る現状と課題、技能実習生を受入れるための心得、「やさしい日本語」などのコミュニケーション方法を学ぶための研修を開催。

伊万里市が進めている地域日本語教室の取組や地元のまちづくり協議会の取組とも連携しながら、外国人と日本人が安心して暮らせる地域づくりを目指す。

JA伊万里における生活オリエンテーション（実習生向け）



Summer

- ・ Nắng nóng 暑い
- ・ Độ ẩm cao 湿度が高い
- ・ Mùa mưa 梅雨がある

→

- ・ Thức ăn nhanh thiu 食べ物が早く腐る
- ・ Dễ sinh nấm mốc カビが生えやすい
- ・ Nhiều côn trùng 蚊、昆虫が多い

2

Khi muốn qua đường ở những nơi có đèn giao thông dạng nút nhấn, thì phải nhấn nút, đợi đèn chuyển xanh hoàn toàn rồi mới qua sang đường. 押しボタン式信号機に横断歩道を渡る時は、ボタンを押して青くなるまで待って渡ること。



技能実習生が、早く生活に慣れるため、生活に必要な基本的な情報やルールを学ぶ生活オリエンテーションを開催。

実習生に交通ルール、言葉、生活情報等の内容を中心に県国際課所属のベトナム人職員がベトナム語で説明。また、伊万里市からは伊万里市の特産品や焼き物、地域について説明。JA伊万里、監理団体、伊万里市、佐賀県が連携し、実習生がスムーズに生活に慣れ、充実した実習・生活を送るためのサポートを引き続き行っていく。

企業と地域の日本語教室の関わり

文化庁 文化庁地域日本語教育スタートアッププログラム
 にほんごきょうしつ
日本語教室「Awesome IMARI」のスケジュール(2022年度)

第1回 伊万里の防災について
 時間 9月4日(日) 14:00~15:30
 場所 黒川コミュニティセンター
 内容 市在住外国人の集住地域である黒川町で災害が発生することを想定し、市防災課と連携して、防災について学ぶ。

第2回 伊万里の郵便局について
 時間 9月25日(日) 14:00~15:30
 場所 生涯学習センター第3学習室
 内容 日本国内、海外に荷物を送る方法などについて学ぶ。

第3回 伊万里の銀行について
 時間 10月9日(日) 14:00~15:30
 場所 生涯学習センター第3学習室
 内容 ATMの使い方、振込及び海外送金の方法について学ぶ。

第4回 日本人との交流①「バザーでものを売る」
 時間 10月30日(日) 14:00~15:30
 場所 武雄市まちなか広場・中央公園
 内容 毎年開催される「さが国際フェスタ」で、桜樹学園生たちがバザー(伊万里祭、旗節など)を聞く。(バザーの収入を第6回教室のバス運賃として)

第5回 バスに乗って、買い物に行こう①
 時間 11月20日(日) 14:00~15:30
 場所 黒川コミュニティセンター
 内容 バスの時刻表の見方、買い物する際に必要な生活情報(店舗のチラシ、賞味期限・平価シールなど)について学ぶ。

第6回 バスに乗って、買い物に行こう②
 時間 11月23日(祝日) 14:00~15:30
 場所 黒川コミュニティセンター台ダイレックス
 内容 第5回教室の実践として、実際にバスに乗って、買い物に行く。

— ほがらかページ —

～みんなで考えよう～



● 問合せ まちづくり課多文化共生係
 (☎ ☎7046)

日本語教室「Awesome IMARI」で活動する人を紹介します

このコーナーでは、実生活の事例を通して日本語を学ぶ「日本語教室Awesome IMARI」で活動している市内に住む日本人支援者と、日本語を学ぶ外国人を紹介し、多様な年代の日本人と関わり、楽しく交流活動を行っています。



吉村 恭太さん
 (34歳・南ヶ丘)

支援者になったきっかけ

市の中国語教室に通っていたところ、声を掛けてもらいました。

活動して良かったこと

異なる文化を持つ人と、楽しく交流ができること。

これからやりたいこと

さまざまな国の文化を融合させた、新しい祭りをつくり、市民みんなで共有できる文化に発展させること。

市民の皆さんへひと言

お互いの文化を知り、みんなが安心して楽しく暮らせるまちにしましょう。



ローシマさん
 (22歳・二里町東八谷 国籍: スリランカ)

伊万里に来たのはいつですか

令和3年12月、伊万里に来ました。

伊万里の印象は

スリランカと比べて、騒音がなく静かなまち。スーパーも家の近くにあるので、便利です。

日本語教室に参加してみて

参加してよかったです。スリランカで日本語の先生になるために、まずは7月にある日本語試験に合格できるよう頑張りたいです。

これからやってみたいこと

景色がきれいな場所に、行ってみたいです。

※Awesomeとは・・・英語で「すばらしい」、「最高」、「すごい」の意味

広報伊万里2022年6月号

外国人材の受け入れは「面倒な事」や「問題」ではなく
企業の「挑戦」や「成長の機会」



- ・ 共に働きやすい環境を作るために、このようなマインド醸成の取組を企業等と連携してを進めていく
- ・ 企業内の様々な課題に対して、解決のために地域のリソースをつなげていく
- ・ 県内の優良事例をもとに、他の事業所にも環境づくりの取組を広げる

企業と地域が一体となった多文化共生の地域づくりの 取組を増やしていく

企業内のみの環境づくりにとどまらず、企業と様々な地域の主体
が関わることにより、外国人も日本人もともに暮らしやすい地域づ
くりを進めていく